

平成 28 年度 学校法人三幸学園 神戸元町医療秘書専門学校

自己評価報告責任者：副校長 武藤 洋和

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 久米 主税

【項目別自己評価表】

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「こうしてほしいを理解し、考え動ける人材になる。」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材育成」を根底に、専門学校として社会・業界に求められる人材育成を同時に進めている。

学校スローガンとして「神戸に新しい風を！」と掲げ、新設校として神戸を盛り上げていきたいという想いをもち地域に根付いた学校となるよう努めていく。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

元気な挨拶・正しい言葉遣い・積極的美化を強化

卒業生アンケート 「学校を進める・まあ進める」を分野平均点以上

授業アンケート 「先生の授業を後輩に進める」を分野平均点以上

退学者 4.5%未満

資格取得率 80%以上

① 振り返り

・昨年度退学者は4.5%とほとんどいなかった。今年度も継続していきたい項目である。

・アンケート項目に関しては、さらに向上を目指す必要があり今年度は授業見学などを教員同士で行うなど、新たな取り組みを行っていくことも検討していく。

・資格は、教科のレベルにもよるが100%近くの実績を収めているものもあれば、80%以下の教科もあった。今年度も、一つでも多くの検定を取れるよう学生サポートを行っていく。

② 学校関係者評価委員コメント

新設校として初めての1年であった。

今年度は開校2年目として基礎を築いて行くために、昨年度の反省点を受け止め改善していったほしい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

教育理念に基づき人材育成像を掲げるものの、年数回の全体会議のみでの発信になり、あまり意識することが出来ずに年度を終えた。

② 今後の改善方策

引き続き人材育成像ポスターを校内に掲示し、「見える化」を図り、常に意識させる取組みから、目指す人材像の促進化を図る。

③ 特記事項

なし

【委員会コメント】

・医療業界では、素直で明るく元気な人材を求めている。未経験者の採用を行う場合「笑顔が良い・話し方が綺麗・話の聞き方(うなずき)や姿勢が良いか・目の輝きがあるかなど」印象を重視するケースが多い。知識や技術も必要であるが、それ以上にコミュニケーション能力が必要になってくる。

・プレゼンテーションの授業などで、コミュニケーション能力の向上を図る取組みがされているとのことなので継続してほしい。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 ③ 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 ③ 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

① 課題

多岐に渡る校務分掌がある中、質の向上を目指したいが、慢性的なマンパワー不足と人財育成の停滞が課題。

併せて新規校の為、仕組みづくりも弱かった。

② 今後の改善方策

OJT・OFF-JTによる育成システムの構築

積極的な卒業生採用

③ 特記事項

なし

【委員会コメント】

・業務を1年目から持たせることによって、経験しながら覚えていくことにより早く自走できるようになるのではないかと。しかし、任せきりではなく、一つ一つの業務フォローも行い、業務的内容フォロー以外にもメンタルのサポーターを付けて心のケアをしながら、業務を取り組めるようにサポートする。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	②	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	②	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

① 課題

開校1年目ということもあり、関連分野との関係性がまだ構築出来ていない。

① 今後の改善方策

業界との繋がりが持てるよう、講師派遣やインターンシップ以上の見直しを検討する

② 特記事項

なし

【委員会コメント】

・医療事務はボランティアイベントなどでの関わりが難しい業界である。しかし、学業を優先しながら学校終了後に事前研修やアルバイトを行う形であれば、内定に繋がりがやすくなり、現場の経験を生徒自身も積むことが出来る。その上で企業との関係を強めていく。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	④	3	2
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	①

① 課題

資格取得率の更なる向上

退学者の低減

② 今後の改善方策

資格取得⇒教科会の定期開催

退学率⇒数値目標の設定や、退学事前報告会等の開催

③ 特記事項

全国展開しているグループ校との連携により、資格取得に向けた傾向と対策を実施

同じように退学率低減についても教育開発部が主導となって、退学者への様々なアプローチを実施し低減に努めている。

【委員会コメント】

・診療報酬請求事務/医療秘書技能検定/医療事務検定など、現場では医療事務の仕事を知っているという前提で求人募集をかけるので、必要な資格は全学生取得しておくように勉強に取り組ませる。

・最近では、受付もPCやタブレット化されてきているのでパソコン系資格や、海外の患者も増えており英会話のスキルもあるとなお良い。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

担任スタッフの経験が浅く、専門知識が乏しいことにより、学生支援が弱体化
卒業生への支援発信を在学中から行えていない

② 今後の改善方策

ビジネススキル勉強会や、企業訪問の活用
「同窓会 Sanko-Link」の活用と活性化

③ 特記事項

就職指導については、クラス担任と就職エリア担当のダブルサポートシステムを実施し、内定獲得まで導く体制づくりをしている

【委員会コメント】

・学校外生活の部分でも、寮生同士のボーリング大会など、私生活の充実化をはかり交流を深めるイベントや防災・防犯訓練などの実用的な研修を行っている。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

施設・設備の更なる環境改善

② 今後の改善方策

環境改善に向けての周知と、迅速な対応を行う

③ 特記事項

神戸校全教室にPCプロジェクターが設置されている

毎年姉妹校合同での、海外研修(ロサンゼルス 4泊6日)を実施している

【委員会コメント】

・現場に近い教室や環境の設定ができています。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

定員充足率を100%にする

② 今後の改善方策

関西・広島広報室との連携強化を図り、募集活動にさらに力を入れる

③ 特記事項

兵庫県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる

【委員会コメント】

・競合校も数多く存在するが、三幸学園の強みを生かして生徒募集を行い医療事務分野を盛り上げてほしい。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

①課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更新の中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

③ 今後の改善方法

【中期計画】

今年度に新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

④ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	①

① 課題

自己評価で浮き彫りになった課題に対して迅速に対応できていない

② 今後の改善方策

まずは自己評価の実施ならび公開を行い、職業実践専門課程認定に向けた動きを意識することで、浮き彫りになった課題を解決していく

③ 特記事項

なし

【委員会コメント】

・職業実践専門課程認定という言葉自体を知らない高校の先生が大変多い。しかし、企業と連携することにより、現場で即戦力となる学びを得られることもありぜひ取り入れていってほしい。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	②	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 課題

学校開放やボランティア活動がほとんど出来てない

② 今後の改善方策

合同校のメリットを生かして、学校開放等を積極的に案内実施していく

③ 特記事項

なし

【委員会コメント】

・三幸グループのネットワークを使い、日本教育クリエイトとの連携の一つとして教室貸出することにより一般の方への認知も広がるのではないかと。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年で、神戸校は完成年度を迎える。今年の1年は、学校の基礎を作る上で非常に重要な1年になる。就職に関しても、大半の学生が神戸市を中心とした近郊エリアを希望しており、卒業生の勤務先や実習先を含め関係性を深く築いていく必要がある。

また、資格検定においてより合格率を高めることを意識し、三幸学園のグループネットワークを活かし姉妹校の情報等を先生方に共有する取り組みを続けていってほしい。

次年度のさらなる神戸校の発展を期待している。